

女性委員の更なる活躍へ おおさか農委女性協役員に聞く

今般の農業委員会統一改選により、府内全農委で女性委員が登用された。本府では3月に「おおさか農業委員会女性協議会」を創設。これからの女性委員の更なる活躍を目指すべく、同協議会の役員の委員活動の取り組みや抱負を紹介する。

課題や事例など共有できる場に

熊取町・大屋満喜さん

「女性は平均寿命が長い。経験を積み重ねられる強みがあるかもしれない」と大屋さん



熊取町農業委員会の大屋満喜さん(67)は、7月の委員改選で農業委員5期目を迎えるが、今回、農業委員会会長に選任された。息子夫婦とともに約2・8畝で営農し、自身もほぼ毎日、農産物をスーパーや直売所へ出荷。その道中で担当区域の農地を見

回り、遊休化の兆候や鳥獣被害の状況など、地域の実態把握に努めている。委員活動を通じて感じているのは、農地の将来的な利用に悩む世帯や、近隣の農業者に管理を委ねる世帯が増えていることだ。管内農家が農業で安定した生計を立てられるよう、営農環境の整備や経営を支える仕組みの充実が必要だと考えている。また、地区担当委員が農業全般に関する相談をこれまで以上に受けられる体制を作ること、地域農業の維持・保全に繋がっていくのでは、と展望を語る。

女性や青年委員がそれぞれの視点を発揮できるよう複数人ずつの登用をめざし、地域農業の将来を多角的に考えられる体制づくりの必要性も指摘。自身も町農委のもう1人の女性委員と日頃から連絡を取り合い、気軽に相談・連携できるありがたみを実感しているがゆえのことだ。今年3月に設立された「おおさか農業委員会女性協議会」では初代会長に就任。「現場で抱える課題や優良事例を地域を越えて共有し、それぞれの委員活動に生かせる場にしたい」と期待を寄せる。(沼田)

義父のバトンタッチで委員に 女性協通じ委員活動の活性化を

富田林市・岡田奈未子さん

今回の農業委員会改選で、富田林市の農業委員4期目となる岡田奈未子さん(62)。西板持地区の約1畝の農地で、ナス、エビモ、水稻を夫と共に栽培している。

義父は元農業委員。義父の退任のおり、委員への女性登用の関係で就任依頼の話があり、引き継ぐような形で就任することとなった。

男性委員の多い中、女性としての立ち位置に戸惑いながらも、

義父の見よう見真似で委員活動に尽力。日々の農地の見回り・声掛け等に加え、地域計画策定の際には集落座談会にも委員として出席した。また、同地区では出荷場の整備等の課題があり、そうした話し合いの場へも積極的に参画している。

同地区はナスの産地として名を馳せている農業が盛んな地域。岡田さんは「耕作困難な農地を若手が引き受ける話は多々あるが、担い手が限られる中、い

れ限界がくる。産地を支える小規模な家族経営の農家が、自身の農地を守りながら長く続けられるような環境を地域で作っていかねばならない」と意気込む。

今年3月設立の「おおさか農業委員会女性協議会」では副会長に就任。女性委員の研修・交流について岡田さんは「市町村を越えての女性委員同士の交流は、活動の刺激と励ましになる。改選で



「女性協での活動・交流などで知見を深め、地域農業を守り活かす取り組みに役立てたい」と岡田さん

新たな委員も増えていると思うので、そうした機会を作ってほしい」と話す。(中島)